

栄養療法の症例報告①

◆患者データ

- ・疾患名:**ADHD・チック**(トゥレット症候群)
- ・性別:男性
- ・年齢:11歳

◆症状

- ・多動、忘れ物が多いなど発達障害ADHDの診断
- ・音に対して敏感でありテレビは音を消し字幕表示にしている
- ・5歳から認められたチック症状が増悪し、音声チックとなりトゥレット症候群と診断され授業などで支障が大きくなる
- ・児童精神科にて上記診断となりアリピプラゾールなどが処方されるも 効果乏しく副作用を認める

治療前

- ・栄養療法以前の全体的な症状を10としたとき、8ヶ月後は3まで**改善**
- ・残っている症状では、ストレスなどにより軽いチック症状
- ・音の敏感さなどが著しく改善し映画館にて映画鑑賞も**可能**となった
- ・ケアレスミスが減り漢字テスト、計算テストなどがほとんど**100点**となった

治療後

◆データ

検査項目	治療前	治療後
赤血球数	512	438
ヘモグロビン	14.5	13.5
MCV	84.6	93.2
MCH	29.7	31.1
フェリチン	42	182
総鉄結合能	390	289
グリコアルブミン	12.5	13.5
1.5-AG	13.8	31.9
25OHビタミンD	21.3	66.7
ホモシステイン	13.9	7.8

- ※1 通常用いる基準値による評価では栄養状態を評価することはできません。
- ※2 オートモレキュラー療法では、本来あるべき理想的な栄養状態と比較することで不足している栄養素を選択します。

治療前

- ・潜在性の鉄不足と鉄の利用障害
- ・ビタミンD不足
- ・血糖の乱高下
- ・ビタミンB群の不足

治療後

栄養療法の継続によって上記の問題が改善しています